

## 田舎の医学物理士が VMAT 治療計画実習講習会に参加したら

信州大学病院 放射線部 村山寛朗

田舎の医学物理士は治療計画をしません。医学物理士として採用されておらず、放射線技師として働きながら資格取得した人が多いからであり、私の知る限り長野県内で医学物理士が治療計画をしている施設は 1 施設のみです。信州大学病院がその施設なのかというと、答えは否です。そんな私が VMAT 治療計画実習に参加したのは（たまたまパソコンの前に座っていたから・・・ではなく）、全てを兼任で行っている田舎の医学物理士の働き方が将来どうなるか、この実習を通し、垣間見る事ができればという思いからです。

1 日目の午前中は、初心者のためにプランの作成手順、ファントムへの計画を行いました。ちょっとした疑問はすぐに講師の先生、メーカーの方に聞く事ができ、スムーズに計画を進める事ができました。午後は、臨床 CT で計画にとりかかりました。前立腺の計画は教わったコツの通りに進めると、比較的簡単に線量制約を満たす事ができました。その調子で頭頸部に取り掛かると、その難しいこと・・・途中講義で Tips を挟んだりしながら、適宜休憩を取り何度もトライしました。配布された資料は、とても見やすく講義と合わせて見返しながら計画をすすめられました。2 日目の午前中も引き続き計画を行いました。講師の先生に助言をいただきながら、ターゲットへの線量制約はクリアできたのですが、OAR への線量制約は最後まで満たす事ができず、計画の難しさを実感しました。それとともに専門の人材が必要な分野だということを感じました。

講習会は様々な手法を紹介して、受講者が実践した過程で選び取っていくというスタンスで終始進められました。一方的な講義ではなく、考えながら進めていく事で、より体験として身についたと感じます。翌日の業務では医師へフィードバックもでき、非常に有意義な 2 日間となりました。

冒頭で計画をしない旨をお伝えしたのは、受講者で驚いた方がいたからです。医学物理士が治療計画をするのは常識、そんな世代が増えていく中で、田舎への普及も、そう遠い未来でないと感じました。

講師の先生が、募集前は講習会の参加費も高く人が集まるか心配だったとおっしゃっていましたが、次回参加希望の皆様、安心してください。この講習会コストパフォーマンス高いですよ。